

<2017年に予定される中国地方の地方選挙>

首長		議員	
1月	22日=広島県坂町、島根県飯南町、鳥取県伯耆町	22日=倉敷市(43)	
2月	26日=柳井市	5日=山口県田布施町(13)▽12日=島根県西ノ島町(10)	
3月	5日=広島県北広島町▽12日=下関市▽19日=萩市▽26日=赤磐市、岡山県鏡野町	5日=広島県北広島町(16)▽26日=廿日市市(28)、赤磐市(18)、広島県海田町(16)、広島県大崎上島町(12)、広島県安芸太田町(12)、岡山県鏡野町(15)	
4月	9日=庄原市、山陽小野田市、備前市、出雲市▽16日=三原市、真庭市、松江市、米子市、山口県阿武町、岡山県美咲町、鳥取県大山町	9日=庄原市(20)、出雲市(32)▽16日=三原市(26)、長門市(18)、新見市(18)、真庭市(24)、美作市(18)、松江市(34)、岡山県美咲町(14)、島根県邑南町(15)、鳥取県八頭町(14)、鳥取県大山町(16)▽23日=井原市(20)、鳥根県奥出雲町(14)、鳥取県伯耆町(14)▽29日=鳥取県湯梨浜町(12)※▽30日=島根県隠岐の島町(16)※	
6月	4日=瀬戸内市	4日=瀬戸内市(18)	
7月	17日=宇部市※	4日=鳥取県江府町(10)※▽29日=鳥取県智頭町(12)※▽31日=島根県飯南町(10)※、島根県美郷町(12)※	
9月	18日=山口県和木町※	17日=鳥取県三朝町(12)※▽19日=山口県阿武町(8)※	
10月	8日=岡山市※▽22日=浜田市※、鳥取県北栄町※▽28日=玉野市※▽29日=大田市※、島根県津和野町※、島根県吉賀町※	1日=総社市(22)※▽9日=山陽小野田市(22)※▽22日=浜田市(24)※、倉吉市(17)※、鳥取県北栄町(15)※▽29日=鳥根県吉賀町(12)※▽31日=江田島市(18)※、安来市(21)※	
11月	12日=山口県※▽14日=鳥取県三朝町※▽18日=鳥取県※▽28日=広島県※		
12月	6日=鳥取県岩美町※	31日=柳井市(18)※	
18年1月	13日=竹原市※		

首長・議員79選挙

ことしの中国5県 広島15 山口13 岡山18 島根18 鳥取15

3選へ現職前向きか

中国地方5県では2017年、計9の首長・議員選挙(補欠選挙を除く)が見込まれている。平成の大合併のピークだった05年から12年がたち、春に任期満了となるケースが多く、3、4月に30市町の選挙が集中。うち10市町はダブル選となり、この2カ月で計40の首長・議員選挙が行われる見通しだ。また、18年1月の任期満了に伴う竹原市長選は17年12月の公算が大きい。県別では広島15、山口13、岡山18、島根18、鳥取15となる。広島県知事選など主として首長選挙の現時点の情勢を展望する。

広島県知事選
現職の湯崎英彦氏(51)は11月28日の二期目の任期が満了となる。昨年12月の記者会見で「(任期の)最後まで全力を尽くす。その後はまだ全く分からない」と明言を避けたものの、県議や県職員の間で3選立候補に前向きとの見方は強い。現時点で新人を擁立する動きは具体化していない。湯崎氏はこの7年間、行政運営に成果主義を導入し、人事や給与に反映。瀬戸内海を軸にした観光振興や起業支援などの産業振興に重点投資した。仕事を重くし、両方を充実させる「欲張りライフ」を掲げ、働き方改革や女性活躍の旗を振る。

広島県の平和発信力を高める「センター構想」、瀬戸内海に人を呼び込む「瀬戸内・海の道構想」、海外で活躍できる人材を育てるグローバルリーダー育成校。次の選挙以降、湯崎氏が柱に据える事業の前進や具体化が見込まれ、「辞める理由が見当たらない」(県幹部)。昨年未だには湯崎氏の後援会などが福山市で初めて「知事を囲む県政懇談会」を開き、選挙への布石との臆測も広がる。

県議会内では評価が割れている。最大党派で自民党系の自民議連の幹部は、他県との地域間競争が激しさを増す中、発信力や実行力を評価し、「また一種が芽生えている。県政の刷新は広島にとって得策ではない」とも。一方、同じ自民党系の自民党議員会は「成果主義で職員が疲弊している。成果も目に見えてこない」と批判を強める。(胡千洋)

現職進退表明せず

呉市長選
11月18日に任期満了を迎える3期目の現職小村和年氏(69)は進退を明らかにしていない。元衆議院議員の三谷光男氏(67)が昨年11月、無所属で立候補する意向を表明。呉市出身で元財務省官僚の新原芳明氏(69)も立候補の意思を固めている。

小村氏は、市役所の新庁舎建設や中核市移行、旧軍港4市での日本遺産認定などを推進してきた。一方、急速な人口減少や、JRA員駅前などの旧店跡地の活用策では有効な対策が見いだせず、市中心部の空洞化を懸念する声は根強い。次の4年を担う市長は、雇用創出を含めた経済振興の手腕が問われる。

現職の他に動きなし

三原市長選
現職の天満洋典氏(70)は昨年12月8日の市議会定例会の一般質問で、再選を目指すとして無所属で立候補する考えを表明した。その後の記者会見で「やり残した事業をやり遂げたい」と理由を説明した。

天満氏は、更地の状態が続くJRC三原駅前市有地の活用、約600人の地元

現新2氏が立候補表明

庄原市長選
2期目を目指す現職の木山耕三氏(62)と、日本銀行長崎支店長などを歴任した新人の田辺敏憲氏(67)が立候補を表明。4月9日の投票に向けて選挙戦になる見通しだ。

木山氏は前回より2カ月

下関市長選

いずれも無所属での立候補を表明している。

中尾氏は林芳正元農相(参院山口)と支持者が重なる。前田氏は安倍晋三首相(山口4区)の元秘書。松村氏は過去の市長選で中尾氏を応援してきた。自民党は前田氏を推薦したが、

岡山市長選

現職2期目へ立候補の見方
10月8日に任期満了を迎える現職の大森雅夫氏(69)は進退を表明していないが、2期目を目指すとの見方が強い。ほかに共産党岡山地区委員会などをつとめる市民団体が候補擁立を目指している。

大森氏は2013年、自民・民主、公明の3党のほかに、連合岡山の推薦、当時菅の日本維新の会岡山県総支部の支持を受け、新人5人の激戦を制した。大森氏は、昨年12月の記者会見で「子育て環境の整備、教育など課題は相当ある。新年度の予算案作りに一生懸命で、選挙についてはコメントする余裕はない」と述べてきた。(加茂孝之)

松江市長選

4選狙う現職 多選へ批判も
現職の松浦正敏氏(68)が昨年10月、4選を目指して立候補を表明した。投票日は4月16日。松江城天守の国指定といった成果を掲げ、「地方版総合戦略を軌道に乗せたい」と市政の継続を訴える。ただ、これまで松浦氏を支援してきた市議会の最大会派が推薦を保留するなど、多選批判も根強く残る。

反原発を掲げる共産党岡山地区委員会は候補者の擁立を急いでいる。

市内に立地する中国電力島根原発1号機の廃止措置計画や、身機再稼働、建設中の3号機稼働への姿勢が争点の一つ。空洞化が進む市街地や、合併前の旧町村振興策も問われる。(西村晴)

自主投票決定

3選を目指す現職の中尾友昭氏(67)、共に新人で元市議の前田晋太郎氏(40)、松村正剛氏(63)の3人が、

この他にも立候補を探る

決めるなど、支援が入り乱れる。

この他にも立候補を探る動きがある。3月12日の投票に向け、人口減少対策や瀬戸内海沿いの市中心部の活性化策などが論戦の軸となりそうだ。(村田拓也)